



第23回 ^{だい} ^{かい} アイム・ジャパン ^{さくぶん} 作文コンクール

佳作

題名 『お土産』

しめい 氏名	テイ アグソ クニアツ
しゅっしんこく 出身国	インドネシア
かいしゃめい 会社名	株式会社 渡辺製作所
しょくしゅ 職種	機械加工
たんとうしきょく 担当支局	福岡支局
にゅうこくび 入国日	2020年2月8日 ^{ねん} ^{がつ} ^{にち} 5年目

「お土産」

ディキ アグン クルニアワン

私は「宇佐日本語教室」でN2の勉強をしています。一回100円で勉強できるボランティアの教室です。先生方は7人、N1からN5まで6クラスに分かれて勉強しています。先生方は優しいし、とても丁寧に教えてくれます。日本語能力試験を受けたいと思っている人なら、誰でも行くことが出来る教室です。この教室では、新しい知識をもらうだけでなく、よく「お土産」をもらいます。お米、野菜、果物、ケーキやパンのこともあります。たまに、鶏肉や猪肉までもくれました。

ある日、私は先生に「土曜日、暇だったら、一緒に落花生を掘りに行かない？」と誘われました。最初はただのお手伝いだと思っていたのですが、全部収穫した後、自分が採った落花生を大きなゴミ袋に入れて、全部持って帰るように言われました。会ったこともないのに、こんなに優しい人がいるなんて。「大

丈夫よ、もらって帰りましょう。教室のみんなにも配りましょう。」と先生が言いました。

落花生を掘っている時に、隣にいたおばさんが「枝豆、好き？今度は枝豆を取りに来てね。」私半信半疑だったのですが、それから数日後、仕事から帰ってくると、アパートの部屋の前に、大きな段ボール箱いっぱいの枝豆がドーンとおかれていました。

そして、美味しいお弁当もいただきました。お弁当屋さんには「売れ残りですが、よかったら生徒さんたちに食べさせてください。」と言ってくたさるらしいのですが、ご飯は炊きたてで温かいのです。余り物ではなくて、私たちのために、わざわざ作ってくれたものなのです。

また、たくさんのふわふわケーキと、焼きたてパンが入っていた大きないくつかの箱を、先生と一緒に返しに行ったとき、「時間があまりないので、少しですみません。お勉強がんばってね。」私たちのために朝早くからパン

を焼いてくれるとても優しい人です。

教室が終わったあと、希望者全員で野菜を畑まで収穫しに行ったこともありました。

家族と離れて、外国で働くのは簡単なことではありません。日本人と仲良くなるのは、難しいですが、私は周りの人に、恵まれて来ました。自分の息子のようにかわいがってくれる「おかあさん」もいます。同じ職場で働いている方々が、日本語の練習のパートナーになってくれます。一度も会ったこともないのに、お米や野菜をくださる方もたくさんいます。私たちへの思いやりはとても大きいです。どうやってお返しをしたらいいのか、見当もつきません。いつか私も困っている人がいたら、手をさしのべることが出来るようになりたいです。

物心両面に渡るたくさんのお土産をもらって、私の実習はもうすぐ終わります。学んだことを生かせるようにしていきたいと思っています。